

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	きらり鎌ヶ谷市民会館の管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	3	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	市民会館			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	吉野光雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	地震や火災等が起きた際の訓練はショッピングプラザ鎌ヶ谷を中心に定期的に行っているが、他店舗を舞台としての非難訓練であるため、市民会館内独自の避難訓練が必要。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	平成28年度に実施した避難訓練で出た反省点・意見を踏まえ、平成29年度も来場者の安全を図るために、避難訓練を実施する。
②①に基づく取組み結果	危機管理マニュアルを元に、市民会館内施設職員で避難訓練を実施した。その他、警備員立会いでの避難訓練も実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター、市民活動推進センター	意図(対象をどうするのか)	各施設が円滑に運営されている。
②事務事業の概要	市民会館内の併設施設である、きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター、市民活動推進センターの管理運営を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	各施設の来場者数が増加している。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	きらりホール・多文化共生推進センターの入場者数は減少したが、他施設は増加傾向である。						
②成果を表す指標	指標名称		平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	きらりホール	74,932	58,438	57,047	人	業務取得
	ii	中央公民館	66,674	95,029	98,295	人	業務取得
	iii	多文化共生推進センター	3,402	3,435	2,827	人	業務取得
	iv	男女共同参画推進センター・市民活動推進センター	3,546	4,847	5,010	人	業務取得
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳			平成29年度予算	
事業費(千円)	114,643	114,290	金額(千円)	内容		114,853	
	国支出金(千円)		10,949	光熱水費			
	県支出金(千円)		12,733	清掃管理委託			
	市債その他(千円)		80,987	市民会館賃借料			
	一般財源(千円)	114,643	114,290			114,853	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	来場者の安全を図るため、緊急時での市民会館内及びショッピングプラザ鎌ヶ谷との連絡体制の強化				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通	
③上記評価の理由	市民会館内の併設施設を管理運営するにあたって、市関与の妥当性、公平性、有効性は高いといえる。また、複合施設という観点から利用者にとって利便性がある反面、市民会館を中心に情報共有を常に行う必要性もあることから、効率性は普通とした。さらに、課題に対して、各センターから避難訓練に対して様々な意見が出たため、改善とする。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	平成28年度事業費の状況(単位:千円)			
	計画事業費	予算額		決算額
②計画に対する事業実績		当初		H25からの繰越
		H25→26繰越		
③達成状況		補正		現年分
		流用・充当		
④未完了・非着手の理由	平成27年度への繰越額(単位:千円)			

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	きらりホールの管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	3	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	市民会館			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	吉野光雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	利用案内書の見直しを行うなど、利用者にとってわかりやすいホール運営を検討。入場者数が少なかった自主事業の公演の見直しを行い、PR方法等再度検討する。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	きらりホールの貸館利用促進と主催事業での来場者数の増加を図る。
②①に基づく取組み結果	利用案内書を改訂し、また、きらりホール運営委員からPR方法についてアドバイスをもらい、主催事業来場者数の増加を図った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民(施設利用者)	意図(対象をどうするのか)	市民の芸術文化活動をサポートをする。
②事務事業の概要	きらりホールの管理運営を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	きらりホールは、有料事業も行える本格的なホールであることから、発表の場としての市民ニーズは高い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	きらりホール来場者数は減少してしましたが、主催事業の来場者数が5,614人から5,854人と増加している。						
②成果を表す指標	指標名称		平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	ホール来場者数	74,932	58,438	57,047	人	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算		
事業費(千円)	52,531	47,825	金額(千円)	内容	48,220		
国支出金(千円)			8,335	報償費			
県支出金(千円)			3,219	手数料			
市債その他(千円)			28,366	舞台保守管理委			
一般財源(千円)	52,531	47,825			48,220		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	きらりホールの貸館利用促進と主催事業での来場者数の増加を図る。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	5改善
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	「人づくり、地域づくり、まちづくり」の観点から考えると、市関与の妥当性、公平性、有効性、効率性は高いといえる、また、課題に対しての改善が必要である。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	平成28年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績		当初		H25からの繰越	
		H25⇒26繰越			
③達成状況		補正		現年分	
		流用・充当			
④未完了・非着手の理由	平成27年度への繰越額(単位:千円)				